

行政視察報告書

令和6年11月5日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 幸 喜 勇

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	教育福祉委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月23日（水）～令和6年10月25日（金）
3. 視 察 先	①鹿児島県瀬戸内町 ②鹿児島県奄美市・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷 ③福岡県古賀市
4. 調査内容	①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ②青少年支援事業の取組について ③小中学校水泳授業の民間委託について
5. 参 加 者	〔教育福祉委員会〕 委 員 長 幸喜 勇 副委員長 藏根 武 委 員 神田 洋一 糸数 昌宗 又吉 法尚 金城 加奈栄 事 務 局 伊禮 君人
6. 視察先 対応者	①瀬戸内町議会議長、文教厚生常任委員長、議会事務局職員、 教育委員会総務課長 ②奄美市議会事務局職員、福祉政策課長、担当係長 ゆずり葉の郷 理事長、所長 ほか職員3名 ③古賀市議会事務局職員、教育部長、学校教育課長 ほか職員3名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
① にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について	
【にほんの里加計呂麻留学の目的】	
本町の学校教育の振興と充実を期するため、児童生徒が瀬戸内町立の小・中学校に留学し、自然豊かな南国の島で地域の人々との触れあいを通して、子どもたちの豊かな人間性を育成し、学校及び地域の活性化を図るために、必要な事項を定めるものとする。	
【にほんの里加計呂麻留学の募集条件】	
(1) 小学1年生から中学3年生までの児童生徒。	
(2) 保護者がこの制度の趣旨をよく理解でき、一緒に前条に規定する小・中学校校区に住み、子どもたちの育成のため学校の教育方針や地域に協力的であること。	
【にほんの里加計呂麻留学の費用助成】	
特別助成金として、児童・生徒1人あたり月額 30,000 円を転入後、中学卒業月まで支給するものとする。	

住宅助成金として、留学認定月から1年間は家賃の1/2(上限額 11,000 円)を助成するものとする。ただし、税、水道料、光熱費等は自己負担とする。

【にほんの里加計呂麻留学の解除】

- (1) 留学を希望しなくなったとき
- (2) その他の事情により留学ができなくなったとき
- (3) 目的及び募集条件にそぐわなくなった場合

【にほんの里加計呂麻留学の継続及び決定】

留学の継続を希望する留學生の保護者は、留学継続申請書を毎年1月末日までに教育委員会に提出しなければならない。

教育委員会は申請書を受理したときは、申請書の内容を審査し、受入先の校長及び区長の意見を聴取し、必要がある場合は面談を実施の上、継続が適当と認めた場合は留学継続の許可を行う。

教育委員会は許可を行ったときは、留学継続許可書を交付するものとする。

【海の子留学（与路小・中学校留学里親制度）の助成について】

里親への委託料（居住・食費など）月額7万円のうち、瀬戸内町が5万円負担。

給食費や教材費、学用品費、衣料品費、小遣い等の費用は保護者の負担となる。

【海の子留学（与路小・中学校留学里親制度）の募集対象】

- (1) 町外の小学3年生から中学3年生までの児童生徒
- (2) 地域の環境を理解して就学を希望し、且つ保護者の了解を得ている児童生徒
- (3) 心身ともに健康で学校集団生活を営むことができる児童生徒

【海の子留学（与路小・中学校留学里親制度）の体験留学】

体験留学では実際に与路小中学校に通い(1日)、グリーンハウスでの宿泊を体験。留学を希望する場合は、必ず保護者とともに体験留学に参加していただく。

与路小中学校留学里親制度はノエビアが里親の受け入れをしてくれていたが、現在では町で見ている。里親制度のリピーターもいる。

Googleとのパートナーシップを結んで海外ともオンラインで授業をしている。与路島、池地島に関してはスターリンク社を活用して電波も繋がりやすくなった。

コミュニケーションで課題のある子もいるので、なかなか馴染めない子もいる。全国の留学制度の支援金を転々としている家族もいるとのこと。

【所見】

うるま市立津堅小中学校の児童生徒数は、小学校が2人、中学校が7人と減ってきているが、関係人口を増やすことを意識して親子での留学制度も検討してみてはどうかと感じた。

令和5年12月議会で天願浩也元議員が「企画政策課が取り組んでいる移住定住事業に関してもインターネット通信環境の整備は必要不可欠な問題でスターリンク社を活用してのインターネット通信環境整備の早めの導入と住民への補助」を提案しているが、本市でもすぐに取り組めるのではないかと感じた。

本市でも不登校児童生徒が増えているので、今回学んだ留学制度を助成するだけでなく、環境を変えて少人数の自然に関わることで登校復帰する可能性もあるので関係機関で検討することは必要だと感じた。



② 青少年支援事業の取組について

【青少年支援業務委託の取組に至った経緯】

- ・ H13 ゆずり葉の完成と消防職員であった三浦さんとNP0としての取組
- ・ H13 特命人事(青少年支援係)
- ・ H27 退職 H28, 29 再任用(対策官)
- ・ H30 青少年支援業務委託を開始

【ゆずり葉の郷】

法人目的は、深刻な悩みを持つ児童生徒や保護者、障がい者等の相談に応じ「自立・共生」を目指す支援活動を行うと共に、広く青少年の健全育成に寄与することを主たる目的とする。

自立支援施設を4つ立ち上げている。スタッフ19名で20名近くの子どもたちを支援している。現在女子寮には7名いる。

手に負えない子どもたちがいるとのことで、25～26年前から奄美が荒れている時に立ち上げた。365日24時間子ども達を支援していて毎日がドラマ。

学校現場に入っていくことで落ち着いてくる学校がある中で、生徒指導主任の他のところには頼まないとのプライドで、学校が荒れているところもあった。

教育と福祉は両輪。教育の前に福祉がしっかりしていないから教育が混乱しているので福祉をきちんとしないといけない。

全国から最後の砦として「ゆずり葉の郷」がある。

一番難しい引きこもり数が多くなっていて、10代～20代の早いうちに手当しないといけないと感じている。

子どもの話を引き出させるように話し、排除の論理だけはやめて欲しい。理解ある大人を増やしていきたい。

【所見】

全国各地で講演活動をしている世界一幸せな歌う講演家の古市佳央さんに紹介された「ゆずり葉の郷」での三浦一広さんの青少年への取組を学びたくて数年前にコロナで行けなかったが、やっとお会いすることができた。

三浦一広さんは子ども達の自立共生を目指すために日々活動していて、関わってきたいろんなケースの子ども達やヤクザの方々、学校関係、警察関係、大臣クラスの方との話には奇跡に近いと思える内容もあり、警察の受験資格の身長制度を撤廃した話も凄かった。

(※警察官の採用試験では令和5年度から身長・体重の制限は廃止)

教育福祉委員会メンバーも三浦一広さんのお話を伺って驚いている様子で、普段からの言葉のかけ方や子ども達を信じる心が大切だという意見も出ていたので、このような施設や携わっている人が知ることができた良かった。

私自身も子どもの話を引き出させるように話し、理解ある大人を増やしていきたいと感じているので日々できることから活動していき、教育福祉委員会としてもメンバーと協力して議会でも提案していきたいと強く感じた。



③ 小中学校の水泳授業の民間委託について（3中学校と8小学校）

【民間委託スタート時の目的】

屋内プールで水泳授業を実施することで、季節や天候に左右されることなく、計画的に授業が実施できる。また、専門技術を有するインストラクターが指導することにより、児童生徒の泳力向上が期待できる。授業前後の教員による水量の管理、水質のチェック、危険箇所の点検や清掃など、教員が担っていた維持管理に係る負担を軽減することができる。

【民間委託スタート時の実施内容】

毎週火曜日と金曜日に、各学校からクロスパルこが間を貸切バス 2 台で往復し、午前中に 3 コマ(1 コマ50分)の授業を実施。児童生徒は年 3 回(50分×3 回)全ての水泳授業をクロスパルこがで受ける。1 コマ当たり水泳授業を受ける児童生徒は70～100人で、9 人のインストラクター(うち 1 人は全体監視員)が指導にあたる。

1年目はクロスパルこが→通年の維持費に比べて、半分以下の予算で対応することができた。今年度(2年目)は、2か所で対応しているが昨年度よりもより安い金額で提示してくれた企業もあった。2か所の委託契約金額は異なっている。

担当者個人としての見解だが、理想的には水泳事業者で組合をつくっていただき、子ども一人当たりで換算していけばいいのではないかと感じているとのこと。

備品購入に関しては契約書には記載されていないので、新たな市からの財源持ち出しはなく、企業で対応してもらっている。

R5, 6年度は移行期間として考えているので、いつでも戻せるようにプールに水を入れている状態にしているとのこと。

水泳事業者にとっても夕方以降の子ども達の会員数も増えているとのことで相乗効果がある様子。

【所見】

古賀市の市長室ブログには、視察した際に「インストラクターの皆さんの専門的な指導で泳力向上につながる。プールも広く、視察時は3クラスを一斉に実施。学校からバスで会場に行くので、子どもたちのワクワク感も高まっている様子。」と伝えていた。

背景には、老朽化がどんどん進む各学校プール施設の維持管理、さらには更新（建て替え）にかかる財政負担の軽減もあったとのことで、市の試算では、建て替えなどを前提とした場合の今後50年間の費用は年平均5500万円の方、今年度始めた民間委託の場合は約2000万円とのこと。

子ども達の泳力向上だけでなく、先生方の働き方改革、市の財政負担の軽減につながっていることを学べた。本市でも民間委託を早めに検討して、本市の実状に合った方法を見出していくことが必要だと感じた。

古賀市小中学校水泳授業 日程のご案内

【期間】 令和6年4月19日(金) ～ 令和6年11月15日(金)

学校行事に伴い水泳授業が実施されない日もございます。
プールご利用の際は以下の日程をご確認ください。 ■ は実施日です。
ご利用の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力いただきますようお願いいたします。

8月		9月		10月	
火曜日 (8時30分～12時30分)	金曜日 (8時30分～12時30分)	火曜日 (8時30分～12時30分)	金曜日 (8時30分～12時30分)	火曜日 (8時30分～12時30分)	金曜日 (8時30分～12時30分)
	2	3	6	1	4
6	9	10	13	8	11
13	16	17	20	15	18
20	23	24	27	22	25
27	30			29	

2024年8月29日(木)更新

利用コース案内

ドイレ	階段	スロープ	小プール						
	1	2		3	4	5	6	7	8
会員 ロッカー	一般用コース								経度 ロッカー
	授業専用コース								

行政視察報告書

令和6年11月28日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 藏 根 武

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	教育福祉委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月23日（水）～令和6年10月25日（金）
3. 視 察 先	①鹿児島県瀬戸内町 ②鹿児島県奄美市・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷 ③福岡県古賀市
4. 調査内容	①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ②青少年支援事業の取組について ③小中学校水泳授業の民間委託について
5. 参 加 者	〔教育福祉委員会〕 委 員 長 幸喜 勇 副委員長 藏根 武 委 員 神田 洋一 糸数 昌宗 又吉 法尚 金城 加奈栄 事 務 局 伊禮 君人
6. 視察先 対応者	①瀬戸内町議会議長、文教厚生常任委員長、議会事務局職員、 教育委員会総務課長 ②奄美市議会事務局職員、福祉政策課長、担当係長 ゆずり葉の郷 理事長、所長 ほか職員3名 ③古賀市議会事務局職員、教育部長、学校教育課長 ほか職員3名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
【所見】 ① にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ・離島留学とは日本の離島に住民票を移して、地域の学校に通学する国内留学。過疎や少子化の問題を抱える離島の問題解決を目的とした山村留学の一種。 そこで瀬戸内町の留学制度では国や県の補助を活用し、小学1年生から中学3年生を対象として、保護者が制度を理解し、学校や地域の活性化を図るために校区に住み学校の教育方針や地域に協力的であることを条件に実施している。 ・成果として学校存続や地域活性化、人口増に繋がっている。 ・課題としては住居の確保や教育方針の違いがある。学校・地域・教育委員会との連携不足などがある。 ・実績としても約12年で小学校延べ173名、中学校延べ83名の受け入れがある。 ・うるま市も津堅島があるので津堅島の現状を考えると導入することも視野に考えていきたい。	

② 青少年支援事業の取組について

- ・「ゆずり葉の郷」は、非行はなくせる！すべての子にチャンスを！をコンセプトに多くのこども達を保護・管理してきた。地域社会の宝であるこども達はどのような環境におかれても、一人一人の個性や可能性を伸ばして幸せになることが大事でそのためには社会全体で協力・連携していかなければならない。
- ・「出会いと環境」によって、こども達は変わることができる。

③ 小中学校水泳授業の民間委託について

- ・屋内プールでの水泳授業は、天気や季節に関係なく授業計画が立てられる。
- ・専門のインストラクターによる指導で泳力向上が期待できる。
- ・教員の負担軽減（水質管理・清掃・危険個所など）
- ・老朽化による建て替えの財政負担の軽減
- ・民間委託によるメリットの方が多く感じられた。

行政視察報告書

令和6年10月29日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 糸数 昌宗

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	教育福祉委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月23日（水）～令和6年10月25日（金）
3. 視 察 先	①鹿児島県瀬戸内町 ②鹿児島県奄美市・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷 ③福岡県古賀市
4. 調査内容	①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ②青少年支援事業の取組について ③小中学校水泳授業の民間委託について
5. 参 加 者	〔教育福祉委員会〕 委 員 長 幸喜 勇 副委員長 藏根 武 委 員 神田 洋一 糸数 昌宗 又吉 法尚 金城 加奈栄 事 務 局 伊禮 君人
6. 視察先 対応者	①瀬戸内町議会議長、文教厚生常任委員長、議会事務局職員、 教育委員会総務課長 ②奄美市議会事務局職員、福祉政策課長、担当係長 ゆずり葉の郷 理事長、所長 ほか職員3名 ③古賀市議会事務局職員、教育部長、学校教育課長 ほか職員3名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
① にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について 瀬戸内町加計呂麻島での「にほんの里加計呂麻留学」および「海の子留学」の取組は、地域の持続可能な発展と次世代の育成を視野に入れた非常に意義深い活動と言えます。これらの留学プログラムは、自然環境と地域文化に根ざした体験学習を通じて、都市部の子どもたちに多様な成長の機会を提供することを目的にしているとのこと。 まず、「にほんの里加計呂麻留学」は、都会の生活から離れ、加計呂麻島の豊かな自然と伝統的な暮らしを体験することで、子どもたちに日本の里山文化や地域社会との関わり大切さを学んでもらうことを目指しているとのこと。また、地域の人々との交流や農林水産業体験を通じて、子どもたちは自然や地域資源に対する理解を深め、持続可能なライフスタイルへの意識を育むことが期待されているとのこと。 一方、「海の子留学」では、海に近い環境の中での生活や学習を提供することで、子どもたちに海の豊かさや環境保護の重要性を教えています。海の生態系について学	

び、実際に海と触れ合うことで、子どもたちは環境保全の意識を自然と身につけることができ、将来的に地域や自然との共生を目指すリーダーシップを育むことが期待されているとのこと。

これらのプログラムは、地域に新たな交流と活力をもたらし、瀬戸内町の未来を築く若者の育成に大きく貢献しているとのこと。加計呂麻島の持続可能な地域社会の構築と次世代教育の推進は、地域のアイデンティティと魅力の発信にもつながり、今後のモデルケースとして他地域への波及効果が期待されます。



② 青少年支援事業の取組について

サポート体制の整備

施設内で青少年が抱えるさまざまな課題に対応できるように、教育、カウンセリング、生活支援などのサポート体制が整備されている点が印象的でした。青少年のメンタルヘルスや学業支援、職業訓練を含め、社会への復帰に向けた包括的な支援が行われているとのこと。

地域連携の強さ

「ゆずり葉の郷」は、地域の自治体や教育機関、ボランティア団体と密接に連携していることが視察を通じて感じられました。地元の支援者や専門家との協力により、青少年が社会に溶け込み、自己成長を果たすための道が開かれているとのこと。

個別支援の充実

一人一人の青少年が異なる背景やニーズを抱えている中で、個別のアプローチが重視されていることも印象に残りました。個々の興味や目標に応じたプログラムが提供され、彼らの自立や未来設計に向けた支援が行われているとのこと。

今後の課題と改善点

サポート体制が充実している一方で、施設の運営に関する持続可能性や予算の確保など、長期的な視点での課題も指摘されるかもしれません。地域住民や企業からの更なる協力を引き出すための施策や、青少年自身が主体的に地域活動に参加できるような取組も、今後の発展につながるポイントだと感じました。

今後もこのような施設が奄美市だけでなく広範囲にわたり展開され、社会全体で青少年の成長を支える基盤が整うことが期待されます。



③ 小中学校水泳授業の民間委託について

福岡県古賀市では、老朽化した学校プールの改修が必要とされていますが、その際のコストや将来的な維持管理費用を考慮し、民間に委託することによる効率化とコスト削減が検討されています。今回の視察は、民間委託による小中学校の水泳授業がコスト面・安全面・教育効果において、どのような影響をもたらすかを学んできました。

民間委託のメリット

学校プールの改修には高額な費用がかかり、さらに年々増加する維持管理費も課題となります。一方、民間委託にすることで、プール設備の維持費用を削減し、定期的な修繕も民間業者に依頼するため、コストを抑えることができたそうです。

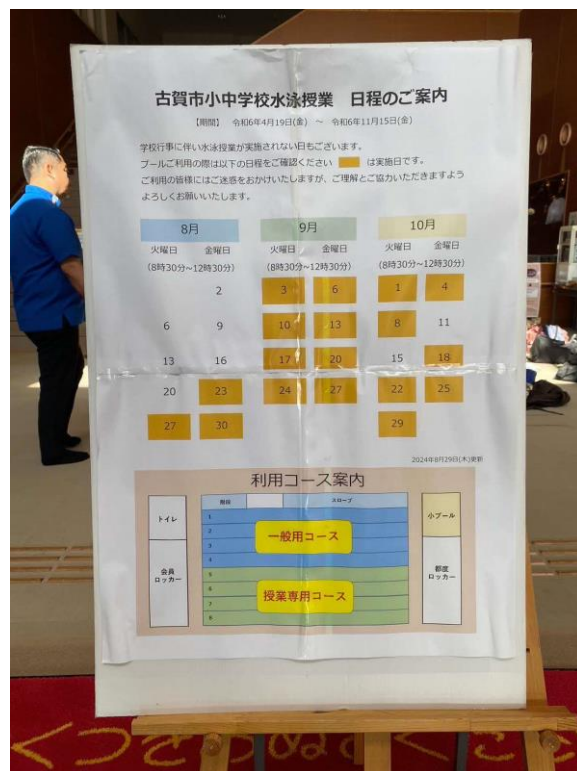
安全性の向上

民間の専門インストラクターによる授業が行われるため、子どもたちの安全管理の質が向上する可能性があります。特に緊急対応や監視体制が整っているため、事故防止対策もしっかりしていました。

教育効果

水泳の専門知識を有するインストラクターから直接指導を受けることにより、効果的な指導が可能で、学習目標達成のスピードや質の向上が見込まれるそうです。

うるま市でも老朽化した学校プールの改修が必要とされていますが、小中学校水泳授業の民間委託は、短期的なコスト削減、授業の安全性、教育効果の向上が期待されます。しかし、長期的なコスト比較や地域社会への影響も考慮し、慎重な検討が必要です。また、委託業者の選定や契約内容の透明性の確保、サービスの定期的な評価体制を整えることが重要だと感じました。



今回の視察研修で多くのことを学ぶことができました。視察に対応いただきました担当者の皆様には心より感謝申し上げます。

専門的な知識と経験に触れる機会を持つことができ、私にとって非常に貴重なものでした。これからも学んだことを生かし、更なるスキルの習得や成長に繋げていき、うるま市の発展に寄与していきたいと思います。

行政視察報告書

令和6年12月 3日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 神田 洋一

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	教育福祉委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月23日（水）～令和6年10月25日（金）
3. 視 察 先	①鹿児島県瀬戸内町 ②鹿児島県奄美市・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷 ③福岡県古賀市
4. 調査内容	①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ②青少年支援事業の取組について ③小中学校水泳授業の民間委託について
5. 参 加 者	〔教育福祉委員会〕 委 員 長 幸喜 勇 副委員長 藏根 武 委 員 神田 洋一 糸数 昌宗 又吉 法尚 金城 加奈栄 事 務 局 伊禮 君人
6. 視察先 対応者	①瀬戸内町議会議長、文教厚生常任委員長、議会事務局職員、 教育委員会総務課長 ②奄美市議会事務局職員、福祉政策課長、担当係長 ゆずり葉の郷 理事長、所長 ほか職員3名 ③古賀市議会事務局職員、教育部長、学校教育課長 ほか職員3名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ■「海の子留学・にほんの里加計呂麻留学」 与路島「海の子留学」: 鹿児島県奄美群島の小さな島、与路島は人口わずか50人ほどのこの島で、子どもたちが1年間、里親と暮らしながら地域の小中学校に通う「海の子留学」が行われている。豊かな自然環境、少人数教育、そして島民との温かい交流を通して、子どもたちの成長を促すユニークな取り組みだと感じた。 子どもたちは、海で泳いだり、山を駆け回ったり、星空を眺めたり、毎日が冒険になるのではと話を伺い感じ取れた。 里親が、子どもたちを迎え入れ、本当の家族のように生活し、島民も子どもたちを地域の一員として受け入れ、地域行事に参加することで、子どもたちは地域社会に溶け込み、都会では難しい協調性や社会性が身につくと感じた。

与路小中学校は、少人数制で、一人一人の生徒の学習意欲の向上を促進できる環境で、島の自然や文化を生かした体験学習も豊富だろうと想像できた。子どもたちは主体的に学ぶ楽しさが自然と身につきそうだ。

親元を離れ、里親と共同生活を送ることで、子どもたちは自立心と責任感を持つようになり、家事や身の回りのことを自分で行い、グループ生活を通して協力できる大人に成長することができる。

「にほんの里 加計呂麻留学」:

家族で島暮らしを体験することで、自然、人、文化との触れ合いを通して、子どもたちの成長を促し、家族の絆を深めることができる制度設計になっていると感じた。都会の生活では味わえない、新たな発見と親子共に成長につながりそうだと感じた。

本市島しょ地域でも「海の子留学」、「にほんの里 加計呂麻留学」のようなユニークな制度を取り入れることで、現代の多様性を尊重する教育が実現できると感じた。また、本市のみならず画一的な教育になじむことができない、県内や県外の親や子どもたちを受け入れることができれば、移住・定住にもつながり、ひいてはうるま市のブランディングにもつながるものと感じた。

■奄美市の「青少年支援事業」

奄美市では、不登校やひきこもりなど青少年問題が深刻化し、専門性を持った地域に根ざした支援が必要とされていました。そこで、長年青少年支援の実績があるNPO法人「ゆずり葉の里」に、市がその業務を令和6年度現在も委託している。

「ゆずり葉の里」では保護司でもある三浦一広所長を先頭に青少年やその家族からの相談支援、自立に向けた生活訓練や就労支援、家族関係の改善のためのカウンセリング、地域住民向けの啓発活動など、青少年の健全育成のための幅広い支援活動を元々行っており、市が青少年支援事業を委託することにより、多くの青少年や家族が様々な相談に対応できるようになった。そして、自立支援や家族関係の改善といった成果も現れ、地域住民や関係機関との連携強化により、地域全体で青少年を支える体制を目指している。

奄美市による「ゆずり葉の里」への青少年支援業務委託は、地域の実情に合わせた、きめ細やかで専門的な支援体制を構築する上で有効な事業となっていると感じた。

三浦所長のような熱意ある人物に青少年の未来を信じて託し、「ゆずり葉の里」で愛され、大切にされ、認められることで精神的充足を得て、前向きな意欲や成長のエネルギーが湧き、非行などを改めることが可能なプラットフォームづくりになっている。

本市においても青少年を支援できるNPOと行政が連携し、地域全体で青少年の健やかな成長を支援していくことが理想だと実感した。

■古賀市の「小・中学校水泳授業の民間委託について」

古賀市では、老朽化したプール漏水がきっかけで、プールの今後の在り方を検討、教員の働き方改革も相まって業務の負担軽減、そして児童生徒の泳力向上を目的として、水泳授業を民間委託することに決定した。

水泳授業は、市内の屋内プール施設「クロスパルこが」で行われ、各校から「クロスパルこが」へバスで移動し、専門のインストラクターによる指導のもと、1コマ(50分)あたり約100人の児童生徒に対し、インストラクターと各担任が指導やサポートを行っていると同った。屋内プールのため、季節や天候に左右されず、年間を通して計画的に水泳授業を実施することも可能。

民間委託による水泳授業は従来のプール維持管理費用と比べて大幅に削減され、財政負担の軽減になっているようだ。

教職員はプール管理や安全管理業務から解放されたことで、本来業務に集中できるようになり、働き方改革に加え、より質の高い授業や生徒へのきめ細かな教育へ力を注げるようになった。また、専門インストラクターによる指導により、児童生徒の泳力向上の成果がみられる。

本市にとして民間委託を推進する際は、集約できるプール施設の存在と、委託が可能な団体や保護者や学校関係者の理解が得られるか、また財政負担を軽減しつつ水泳授業の質を維持・向上させるためには、民間事業者との継続的な連携や、適切な評価システムの仕組み作りが鍵になると感じた。

行政視察報告書

令和6年11月28日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 金城 加奈栄

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	教育福祉委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月23日（水）～令和6年10月25日（金）
3. 視 察 先	①鹿児島県瀬戸内町 ②鹿児島県奄美市・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷 ③福岡県古賀市
4. 調査内容	①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ②青少年支援事業の取組について ③小中学校水泳授業の民間委託について
5. 参 加 者	〔教育福祉委員会〕 委 員 長 幸喜 勇 副委員長 藏根 武 委 員 神田 洋一 糸数 昌宗 又吉 法尚 金城 加奈栄 事 務 局 伊禮 君人
6. 視察先 対応者	①瀬戸内町議会議長、文教厚生常任委員長、議会事務局職員、 教育委員会総務課長 ②奄美市議会事務局職員、福祉政策課長、担当係長 ゆずり葉の郷 理事長、所長 ほか職員3名 ③古賀市議会事務局職員、教育部長、学校教育課長 ほか職員3名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
■瀬戸内町の留学制度について 取組としての条件では、小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒、保護者がこの制度の趣旨をよく理解し、学校及び地域の活性化を図るため町内の小中学校校区に住み、こども達の育成のため、学校の教育方針、地域に協力的であることを条件としている。。 ■費用負担・補助等の充実・海の子留学（合宿型）里親制度について 条件は、小学校3年生から中学校3年生までの児童・生徒で、地域環境を理解して就学を希望し、保護者の了解を得ている児童・生徒、心身ともに健康で学校集合生活を営むことができる児童・生徒、助成金児童生徒1人当たり負担月額5万円と自己負担給食費等2万円とされている。地域医療機関の充実も必要であると感じた。 また、人口増の取組として、空家を利用して住めるようにリフォーム助成を使って対応しているとのこと。	

課題としては、住居の確保・教育方針の違い・学校・地域・教育委員会との連携であると示してある。

■小・中学校水泳授業の民間委託について

経緯平成20年～26年小学校プールが漏水により使用不可となったことから委託先施設で授業を実施、4年後の平成30年に学校施設長寿命化計画において、プール施設のあり方を検討することについて明記、令和元年に市校長会に対して水泳授業の民間委託について調査実施、令和4年6月～民間委託の内容検討後、最終決定しそれ以降は、事務手続きが進んだ状況である。

・気を付けた点

児童・生徒が安全に水泳授業を受けられるようにするため、委託先に対しても安全監視員の配置を義務付け、教員にも評価と併せて安全監視を行うよう校長会を通じて周知、水泳授業においては、学習指導要領に基づく指導をしていく必要があるため、学年ごとに指導内容をするのか、教員が評価をするのはどのような観点で行うのか等を事前に学校、委託先、市教委の3者で協議する場を持ち、学校から要望を委託先に伝えるようにしていること、100名近い児童生徒が授業を受けるため、施設に到着から授業を開始・授業終わりから着替えてバスに乗り組むまで動線の確認など学校・委託先・市教委の3者で共通認識を持つようにしている。

・今後の課題改善

時間的余裕のある時制の検討、インストラクターと教員との線密な情報共有とのものでしたが、教員と3者での1週間、1か月のスケジュールの打ち合わせ時間的余裕の確保対応ができるのか疑問を感じました。また、導入する経緯も長期的に進めていることが把握できた。

行政視察報告書

令和6年12月2日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 又吉 法尚

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	教育福祉委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年10月23日（水）～令和6年10月25日（金）
3. 視 察 先	①鹿児島県瀬戸内町 ②鹿児島県奄美市・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷 ③福岡県古賀市
4. 調査内容	①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について ②青少年支援事業の取組について ③小中学校水泳授業の民間委託について
5. 参 加 者	〔教育福祉委員会〕 委 員 長 幸喜 勇 副委員長 藏根 武 委 員 神田 洋一 糸数 昌宗 又吉 法尚 金城 加奈栄 事 務 局 伊禮 君人
6. 視察先 対応者	①瀬戸内町議会議長、文教厚生常任委員長、議会事務局職員、 教育委員会総務課長 ②奄美市議会事務局職員、福祉政策課長、担当係長 ゆずり葉の郷 理事長、所長 ほか職員3名 ③古賀市議会事務局職員、教育部長、学校教育課長 ほか職員3名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
①にほんの里加計呂麻留学・海の子留学の取組について 親子留学 助成金⇒生徒一人当たり月額30,000円を中学校卒業まで支給。 住宅補助として、家賃の半額（上限11,000円）を1年間助成。 条件 ・小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒 ・保護者がこの制度の趣旨をよく理解し、学校及び地域の活性化を図るため町内の小中学校区に住み、子ども達の育成のため、学校の教育方針や地域に協力的であること。 海の子留学（合宿型） 助成金⇒児童・生徒1人当たり負担月額50,000円 ※実親からは20,000円と給食費等	

条件

- ・小学校3年生から中学校3年生までの児童・生徒
- ・地域の環境を理解して就学を希望し、且つ保護者の了解を得ている児童・生徒
- ・心身ともに健康で学校集団生活を営むことができる児童・生徒

事業成果と課題

成果⇒・学校存続・地域活性化・人口増

課題⇒住宅の確保・教育方針の違い・学校、地域、教育委員会との連携

所見

- ・うるま市でも津堅小中学校の離島校を抱え、年々児童・生徒が減少している現状があります。今回12月議会の一般質問の中で鹿児島県奄美大島瀬戸内町の取組事例を上げ、留学制度や里親制度を実施し、生徒を増やす努力してほしいと要望しました。今回の視察を参考にしながら、うるま市でも是非とも取り組んでいけるよう頑張りたいと思います。

②青少年支援事業の取組について

- ・NPO法人奄美青少年センター「ゆずり葉の郷」を視察しました。
- ・所長の三浦一広さんから青少年への支援に至った経緯や自立援助ホームを開設したきっかけを伺いました。
- ・「非行少年は社会の犠牲者、許し、認め、ほめることで立ち直ることができる」と力説していました。
- ・相談業務は、鹿児島県は奄美市からの委託分だけでも年間3000件も多く寄せられているそうです。
- ・喜入理事長からは「青少年の活動を更に支援したい」社会福祉法人への転換を目指し、自然豊かな奄美で少年少女の自立・更生を支える奄美自然学園を構想しているそうです。
- ・現在、悩みを抱えた10代の少年少女計10人前後が、11人のスタッフと生活を共にし、定時高校に通ったり、アルバイトに励んだりしながら、自立を目指している。巣立った子ども達は150人を超える。

所見

- ・うるま市内にも悩み抱える少年少女が多くいます。学校での支援、行政の支援、家庭への支援等はあるが、今回の視察で勉強した施設等の支援が必要かどうか考え、今後に生かせたらと思います。

③小・中学校水泳授業の民間委託について

- ・福岡県古賀市では、令和5年度7月4日から市内の小・中学生の水泳授業を民間事業者に委託しました。

目的⇒屋内プールで水泳授業を実施することで、季節や天候に左右されることなく、計画的に授業が実施でき、専門技術を有するインストラクターが指導することにより、児童・生徒の泳力向上が期待できる。

教員⇒児童・生徒への声掛け、安全監視及び評価
インストラクター⇒水泳指導、安全監視

事業の成果、

- ・児童・生徒の泳力向上につながっている。
- ・熱中症対策など気にせずに授業を実施できた。
- ・教員の負担軽減につながった（水量・水質の確認など）

今後の課題

- ・時間的余裕のある時制への検討
- ・インストラクターの確保
- ・インストラクターと教員との線密な情報共有

所見

- ・うるま市でも今後経年劣化による不具合が起こってくるプールがでてくとも予測されます。学校長等にもプールの年間の維持費、教員の負担軽減も考えながら「うるま市学校プールのあり方基本方針策定業務」の中で検討してほしいと考えます。

市保有施設が具志川地域に集中しており、石川地域、与勝地域からの移動時間の課題等もあることから、両地域については、施設を集約化し、拠点校となる学校水泳プールの複数校での利活用についても、併せて検討を進めてほしいと考えます。今回の視察で参考になったことを行政に提言しながら、民間委託を進めていきたいと感じた。